

(件名) 北海道観光振興機構主催セミナーについて

10月10日(木)にウラジオストクのロッテホテルで開催された北海道観光セミナー(主催:北海道観光振興機構)に出席したのでレポートします。

本セミナーは昨年12月の新千歳ーウラジオストク直行便就航を踏まえ、(公社)北海道観光振興機構が、ウラル航空と連携して実施したものです。当日はウラジオストクの旅行会社など28社31名が参加し、北海道の観光プレゼンテーションとして道内観光地を動画で紹介したほか、道内の冬のイベント、モデルツアーの紹介などが行われ、ウラル航空側からは、直行便の利便性や使用機材の説明が行われました。プレゼンテーションは全てロシア語で行われたため、参加者の理解も早く、情報が誤差なく伝えられているように感じられました。

開始早々からプレゼンテーションや紹介動画をスマートフォンで撮影している参加者も多く、プレゼンテーション後に実施した商談会にも現地旅行会社が参加するなど、ウラジオストクでの北海道に対する注目の高さを感じました。

現在、新千歳ーウラジオストク間の直行便は12月中旬まで一時運休していますが、こうした取組を通じて観光需要が喚起され、直行便の安定的な運航及びロシア人観光客の増加につながることを期待されます。

**(件名) 小樽市観光セミナーについて**

10月11日(金)にウラジオストク日本センターで小樽市が開催した観光セミナーに出席したのでレポートします。

本セミナーは、沿海地方の都市であるナホトカ市と姉妹都市提携を結んでいる小樽市が、北海道と直行便が就航したウラジオストクからの観光誘客にも力を入れるために実施したものです。

参加者はウラジオストクの旅行会社や有名観光ブロガーなど10数名で、市長からの挨拶の後、1時間程度、プレゼンテーション及び質疑応答を行いました。当日は小樽市長自らが観光資源の説明を行っており、市側の熱心さが伝わるものでした。

プレゼンテーションの内容は、小樽市及び周辺地区の観光スポットを写真中心のパワーポイントで説明し、新千歳ーウラジオストク直行便により短時間で渡航可能であること、小樽市が札幌から至近距離であることなどを強くアピールする内容でした。どれぐらいの観光客が小樽市を訪れるのか、市内観光スポットにてロシア語表示を検討するか等、質疑応答も活発に行われ、終了後に複数の参加者がプレゼンテーションのデータを求めたり、参加した有名ブロガーが小樽市の魅力についてブログで発信するなど、参加者も小樽という地域に興味を示していました。

小樽市としては、参加者の反応に手ごたえを感じた一方で、具体的な情報を今後どのようにロシア側に提供していくかが課題であると認識したようです。

